

# sample

第一問 次の文章を読んで、問一～問六に答えなさい。

問三——Aとあるが、このことについて説明したものととして、最も適当なものを選びなさい。

No. 5

ア 聞き手は、固有名詞を特性の述語づけとして用いることは文法的におかしいとわかり、その後、その表現は意図的であると理解するということ。

イ 聞き手は、ある表現を抽象的な言葉で言い換えていることから隠喩だとわかり、その後、文法的に正しい文の言い換えが必要であると理解するということ。

ウ 聞き手は、非文法的表現が意図的にされていることから隠喩だとわかり、その後、二次的な観念を呼び起こして表現の意味を了解するということ。

エ 聞き手は、ある物の特性を別の物の特性と比較して説明することは文法的に正しいとわかり、その後、未知のものを既知のものとして了解するということ。

オ 聞き手は、ある物の特性が別の物の特性にも当てはまることがわかり、その後、相互に読み解くことが出来ると理解するということ。

問四——Bとあるが、このルールの特徴について説明したものととして、最も適当なものを選びなさい。

No. 6

ア ある具体物を抽象的な概念の束に置き換えて表現することにより、その具体物の手触りを強調し、その手触りに生命力を与えることができる。

イ ある具体物の「らしさ」を別の具体物の「らしさ」で理解することにより、新たな言語規則を形成することができる。

ウ ある具体物の「らしさ」を別の具体物の「らしさ」に結び付けることにより、その「らしさ」を失わせ、別の具体物の生命を与えることができる。

エ ある具体物を概念に置き換えて表現するとその手触りは失われるが、ある具体物を別の手触りを持つ具体物に置き換えて表現することにより、その手触りを掴むことができる。

オ ある具体物を別の具体物と比較することにより、新たな概念のカテゴリーが形成され、新たな文法の一部となることができる。

問五——Cとあるが、筆者は、言葉の機能に着目したどのような考えに基づいてこのように述べていますか。最も適当なものを選びなさい。

No. 7

ア 言葉は、既知の概念の組み合わせによって「認識」の手段として用いられ、新たな概念を形成する隠喩的表現によって「伝達」の手段として用いられるということ。

イ 言葉を、概念そのものを新たに形成する「認識」の手段としてではなく、既知である概念の組み合わせによって何事かを「伝達」する手段としてみなすこと。

ウ 言葉を、概念そのものを新たに形成する「認識」の手段とすることで、新たな世界の構造化をもたらす「伝達」の手段としてみなすこと。

エ 言葉は、既知の概念と新たな概念を組み合わせさせて「認識」の手段となることから、「伝達」の手段として用いるためには概念そのものを新しく形成する必要があるということ。

オ 言葉は、既知の概念の言い換えとして処理されることで「認知」の手段となり、具体的な事例をそのまま典型事例として受け入れることで「伝達」の手段となるということ。

オ エ ウ イ ア 1  
30 25 20 15 10  
〃 〃 〃 〃 〃  
45 35 30 25 40

No. 19

オ エ ウ イ ア 2  
30 25 20 15 10  
〃 〃 〃 〃 〃  
40 35 40 35 30

No. 20

| 科目名   | 標準単位数 | 〔思考力、判断力、表現力等〕 |              |                                              |
|-------|-------|----------------|--------------|----------------------------------------------|
|       |       | 話すこと・聞くこと      | 書くこと         | 読むこと                                         |
| 現代の国語 | 2     | 1 単位時間程度       | 2 単位時間程度     | 10～20単位時間程度                                  |
| 言語文化  | 2     | ※              | 5～10単位時間程度   | 【古典】<br>40～45単位時間程度<br>【近代以降の文章】<br>20単位時間程度 |
| 論理国語  | 4     | ※              | 50～60単位時間程度  | 80～90単位時間程度                                  |
| 文学国語  | 4     | ※              | 30～40単位時間程度  | 100～110単位時間程度                                |
| 国語表現  | 4     | 40～50単位時間程度    | 90～100単位時間程度 | ※                                            |
| 古典探究  | 4     | ※              | ※            | 140単位時間                                      |

(※については、当該科目にその領域が設定されていないことを示す)

問二 次の表は、高等学校学習指導要領（平成三十年三月）「国語」の各科目の「内容の取扱い」に示されている各領域における授業時数をまとめたものです。空欄1、2に当てはまるものを、次のア～オからそれぞれ一つ選びなさい。